

裏切りの闇で眠れ

2008(平成20)年3月27日鑑賞<GAGA 試写室>

★★★★



監督・脚本＝フレデリック・シェンデルフェール／脚本＝ヤン・ブリオン／出演＝ブノワ・マジメル／フィリップ・コーベール／ベアトリス・ダル／オリヴィエ・マルシャル／トメル・シスレー／メディ・ヌブー／アンヌ・マリヴァン／アラン・フィグラール／リュドヴィック・シェンデルフェール（ムヴィオラ配給／2006年フランス映画／107分）

……『あるいは裏切りという名の犬』（04年）に続いて「これぞフィルム・ノワール！」を堪能。高倉健、藤（富司）純子のシリーズと違い、フランスのやくざものは人間関係がわかりにくいのが難点だが、組織の非情さと炸裂するバイオレンスには思わずドッキリ……。そんな中、生き残るのは一体ダレ……？

2作目の、「これぞフィルム・ノワール」を！

「ノワール (NOIR)」とは、フランス語で「黒、闇」を意味する言葉。しかして、昨年1月8日に観た「これぞフィルム・ノワール！」というフランス映画が『あるいは裏切りという名の犬』（04年）。それに続いて、今年も「これぞフィルム・ノワール！」というフランス映画を観ることに。

ちなみに、タイトルがよく似ているのは、『裏切りの闇で眠れ』が、『あるいは裏切りという名の犬』を意識してつくられたため……？

主人公はフランクとクロード

この映画の一方の主人公は、ジャン＝ギィ（オリヴィエ・マルシャル）と組み、闇社会で危険な仕事を請け負っているニヒルな若者フランク（ブノワ・マジメル）。映画の始まりは、サングラスをかけて1人歩いてくるフランクの姿が次第にクローズアップされてくる印象的なシーンから。これによって、主人公がフランクだということをもまず明示！

他方、もう1人の主人公は、闇社会を牛耳っているボスであるクロード・コルティ（フィリップ・コーベール）。クロードは麻薬、売春、偽札から強盗、恐喝、窃盗まで何でも支配している老獪な中年男だ。また、そんな彼を心から愛している情婦がこの映画の紅一点ベアトリス（ベアトリス・ダル）。

この4人がこの映画の核となる人物だから、まずはその顔と名前を頭にたたき込もう。

イシャムとラルビの役割は……？

今、刑務所から出所してきたのは人相の良くない(?)男ラルビ（トメル・シスレー）。そして車で彼を迎えにきたのは従兄のイシャム（メディ・ヌブー）。イシャムは身内のジョニーらとともに、出所祝いに女を呼んで乱痴気騒ぎだが、そこに現れたクロードは、さて何を……？ こんなシーンから彼らの人間関係と力関係を理解しなければならないのだが、ここらあたりから登場人物の名前と顔そしてその役割分担が次第にわからなくなってくるからご用心。したがって、その次に展開される大きな駐車場でのド派手な銃撃戦がなぜ起きたのか、そこでは誰が死に、誰が生き残ったのかも少しわかりにくい……？

プレスシートによると、これはコカインの取引をもち込まれたクロードがアラブ人のラルビとイシャムを現場に向かわせたところ、取引相手の裏切りに遭ったためらしい。そんな目に遭ったクロードのその後の報復活動はすさまじく、クロードからの命令（依頼?）を受けたフランクとジャン＝ギィが裏切り者に対して行うリンチシーンは壮絶そのもの。

トップ不在中のうごめきは……？

ヤクザのトップが逮捕され、有罪判決を受けて刑務所に入ってしまうと、いくら一枚岩を誇ったヤクザの組織でもさまざまな軋みが生まれてくるのは当然。

車検証の偽造という罪でクロードが刑務所に入ると、その1年後、イシャムとラルビはボスの意向を無視した独自のルートを開拓し、拡大していた。それは、東欧諸国に進出しての女の売買やクロードと敵対していたギリシャ人との商売の開始だ。

ベアトリスは足しげくクロードと面会し、シャバの情報を詳しくクロードに伝えていたし、クロードも復帰に備えて心身の鍛練に励んでいたが、トップ不在中に起きて



いるイシャムとラルビを中心とする勝手な行動はいつか報復を受け、大爆発が起きること確実……。

一匹狼のフランクとジャン＝ギィは、そんな情勢を冷静に分析しながら生き残るための策を練っていたが……。

不穏な動きはそれ以外にも

トップ不在中の不穏な動きはその他にもいっぱい。よくわかる話の1つは、ジャン＝ギィの妻ロールとクロードの顧問弁護士との浮気をフランクが偶然発見したこと。フランクはロールに対して「今すぐ止める。見つかったら殺されるぞ」と忠告したが……。

また、スクリーン上だけではなかなか理解できないのが、①クロードの用心棒ムラッドの殺害、②ロマ系のギャングであるルブラン一家の店で起きたクロードの手下リッキーによるルブランの息子殺害事件など、不穏な動きがいっぱい。そんな中、仮釈放で出所してきたクロードは、信頼する(?)フランクを呼び出し、ムラッドを殺した奴への報復とルブラン一家との手打ちの取りなしを依頼したが……。

誰が死に、誰が生き残るの……？

高橋英樹の『男の紋章』シリーズ、高倉健の『昭和残侠传』シリーズ、藤（富司）

純子の『緋牡丹博徒』シリーズのストーリーはすべて単純でわかりやすいが、「これぞフィルム・ノワール！」というフランス映画は登場人物が複雑だし、何でもありのケンカが続出するから、とにかくわかりにくいのが難点……？

クロードの出所後、フランクはなおクロードの命令に忠実に従っているようだが、果たしてその腹の中は……？ また、クロードの出所を知ったイシャムとラルビの動きは……？ そして、クロードが提案したルブラン一家との手打ちは本心？ それとも何らかの裏あり？ さらに、ジャン＝ギイが約束の時間にフランクのもとに現れないのは、ひょっとして妻の浮気がジャン＝ギイにバレたせい……？

そんなこんなで混乱の中、一体どんなドンパチが起きるのだろうか……？ そして、その中で誰が死に、誰が生き残るの……？

あなたはセネガル共和国を知ってる……？

あなたはセネガル共和国を知ってる……？ これはアフリカ大陸の西側の大西洋に面している国で、公用語はフランス語。つまり、旧フランスの植民地だ。したがって、フランクがそこで生活していても不思議ではないが、この映画のラストはなぜかそんなセネガル共和国の首都ダカール。スクリーン上に映るその美しい都市に、今フランクは1人で生活しているようだが、それは一体なぜ……？

映画の冒頭はサングラスをかけたフランクがクローズアップされてくる印象的なシーンだったが、ラストはこれと好対照のシーンとなるから注目。さすが、フランス映画はおしゃれ！

2008(平成20)年4月3日記